

# 今年も熱く行われました！ ロボカップジャパンオープン 2004レポート

あさの じゅんや  
浅野 純也(ライター)



会場はインテックス大阪。連休中の総合イベント・インテックスフェスタの1つとして開催された。

5月1日から4日までの4日間、大阪市のインテックス大阪でロボカップジャパンオープン2004が開催された。6月29日から開催される世界大会に向けての調整・腕試しの場として開催されるジャパンオープンだが、昨年の新潟大会に続く大型連休中の開催となり、一般向けのイベントとして定着しつつある。同会場では連休中にジャパンオープンのほか多数のイベントが併催されており、合わせて13万4000人が訪れた。今回行われたのはサッカーが5リーグ、レスキューが2リーグ、ジュニアが3チャレンジの計10の競技。ジュニアに新たにレスキューチャレンジが加わり競技数が最多、参加チーム数も150を超えた。

## ヒューマノイド リーグ

ROBOCUP

ヒューマノイドリーグは昨年に続き2回目の開催。今回は8チームが参加した。エキジビション的要素が多かった昨年よりも競技内容が厳密に規定され、歩行、障害物回避、バランス、パスチャレンジ、PK戦、パフォーマンスの各種目の総合点で順位を競った。

注目は地元大阪の「Team OSAKA」。今年と来年、2回の大阪大会を盛り上げるために結成されたドリームチームで、1年前に公募により結成された。地元企業と大学が合同チームを組むことが条件とされ、これに機械加工のシステクアカザワ、ロボットベンチャーのヴイストン、大阪大学石黒研究室、ロボガレージのチームが選出され、助成を受けて「VisiON」が開発された(VisiON開発の経緯は16ページからの記事に詳細があるのでそちらを参照のこと)。VisiONは頭部の全方位カメラで環境を把握、自律的な動作が特徴。参加ロボットの中で、もっとも高度な自律性能を誇

っていた。

このほか、昨年に続いてROBO-ONE組(Metallic Fighter、バーニング・スター、Shiff-H2)が五輪の会として参加したほか、マジンガアやはじめロボットなどROBO-ONEでおなじみのロボットも初参加を果たした。

結果から言うと、予想どおりTeam OSAKAが総合優勝を果たして、地元チームの面目を保った。カメラ性能を発揮できる得意としていたPK戦では、はじめロボ



大阪大学Senchans2004は昨年に続いての参加。HOAP-2をベースにした機体。スラローム状に歩行する障害物回避の様子。昨年は歩くこともままならなかったが今年はかなり改良されてきた。ただしバッテリーなど外部にケーブルが出ているため大幅に減点される。

ットにまさかの敗退を喫したものの、歩行競技やパフォーマンスでは高度かつ、安定した性能を披露して総合優勝、ベストヒューマノイドにも選ばれた。

ルールのにも昨年、ラジコン式(ヒューマンコントロール)のROBO-ONE組が圧倒したことや本来のロボカップの目標を考慮してか、今回からヒューマンコントロール型のロボットは自律型に対して得点が大幅に低く抑えられており、自律型が上位を占めた。



ヒューマノイドリーグに参加したロボットのディメンジョンに興味津々の森永さん。公式な数字はリーグの公式ページに掲載されている。



バランス歩行は傾斜の付いた路面を踏破する競技。VisiONは見事にクリア。